

# 平成23年度 第2回 あきた総合支援エリアかがやきの丘運営委員会 資料

## I 医療療育センターと学校間の連携について

### ◇ 第1回報告時の課題と今年度の重点事項（参考）

- |                                  |
|----------------------------------|
| (1)センター入所生についての学校・病棟間の連絡体制       |
| (2)児童生徒についてのセンター・学校共同のカンファレンスの実施 |
| (3)きらり支援学校とセンターリハビリ部門の連携         |

### 1 センター・学校連携協議会

#### (1)参加者

医療療育センター	盲学校・聾学校・秋田きらり支援学校
理事長，センター長，副センター長 事務部長，看護部長，看護次長，業務班長 看護師長，保育・育成科長 リハビリ部門上席主幹	3校校長，副校長，3校教頭，事務長 教育専門監，秋田きらり総括教務主任 秋田きらり養護教諭

#### (2)第1回：平成23年6月27日（月）

- ①平成23年度の主な行事予定
  - ・今年度から，3校で運動会，学習発表会が始まること
  - ・盲学校，秋田きらりで今年度東北地区の研究会会場となること
- ②「かがやきの丘祭り」について
- ③総合相談・発達障害者支援センターへの教育支援員配置
- ④センターPT・OT・STの学校派遣について

#### (3)第2回：平成23年11月28日（月）

- ①「かがやきの丘祭り」について
- ②センター・学校防災計画について
- ③センターPT・OT・STの学校派遣について

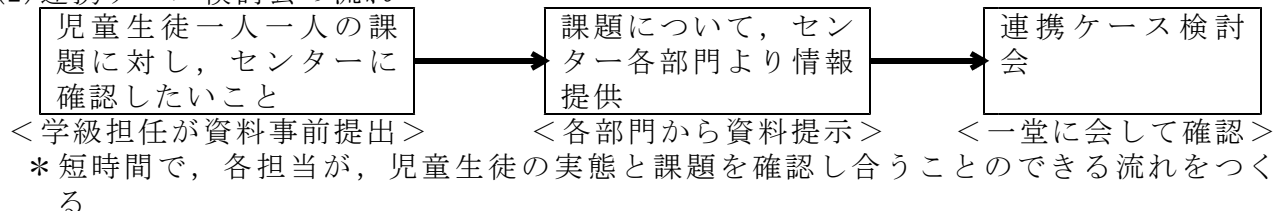
#### (4)第3回は平成24年3月末予定

### 2 連携ケース検討会

#### (1)概要

- |  |
|--|
| ①対 象：医療療育センター入所児童生徒 41名  |
| ②出席者：<br>〈センター〉医師，PT，OT，ST，看護師，保育士<br>〈学 校〉担任，校内コーディネーター，学年主任，養護教諭 |
| ③期 間：6月～12月 計7回  |
| ④時 間：一人につき10～15分，1時間の中で5～6名  |

#### (2)連携ケース検討会の流れ



#### (3)成果と課題

- ・学校で何に困っているのか，児童生徒の生活の一端が理解できた。（センター）
- ・児童生徒の医療，日常生活，学校生活について情報を共有することができた。（学校）

- ・担当者が一堂に会することによって、日常の様々な連絡ややりとりがしやすくなった。(学校)
- ・個々の課題や指導について、担当者が共通理解でき、多方面から適切な情報を得ることができた。(学校)
- ・短時間で、各担当の情報交換はできるが、課題検討の深まりまでには至っていない。(学校)

(4) 次年度に向けて

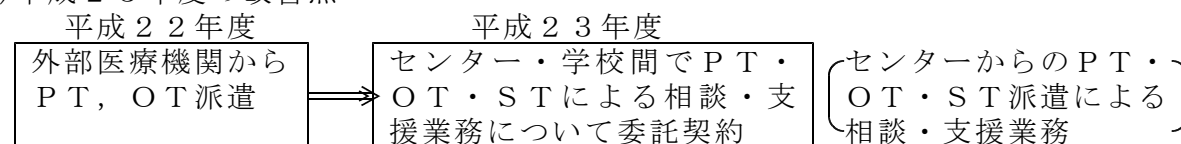
- ・課題をより焦点化して提示することで、課題検討の深まりを期待したい。
- ・課題によって優先順位をつけ、緊急性の高い課題については、早い時期の実施を計画したい。
- ・できれば、センターで診察・訓練を受けている通学生についても、実施したいが、現状での時間確保は難しい。訓練に関しては、教員のリハビリ参観や、センター訓練士の学校訪問時に個別の課題について確認し合う機会を設けている。また、個々の緊急な課題については、通学生対象のケース検討会を随時開いて対応している。

### 3 医療療育センターのPT・OT・STとの連携による相談支援

(1) 平成23年度の実績 \*( )は見込み数

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
PT(10)	15	6	0	12	8	2	5	4	(4)	(0)	(56)
OT(6)	22	10	0	11	5	8	2	5	(5)	(0)	(68)
ST(3)	0	2	0	2	0	1	1	1	(1)	(0)	(8)
計	37	18	0	25	13	11	8	10	(10)	(0)	(132)

(2) 平成23年度の改善点



(3) 成果と課題

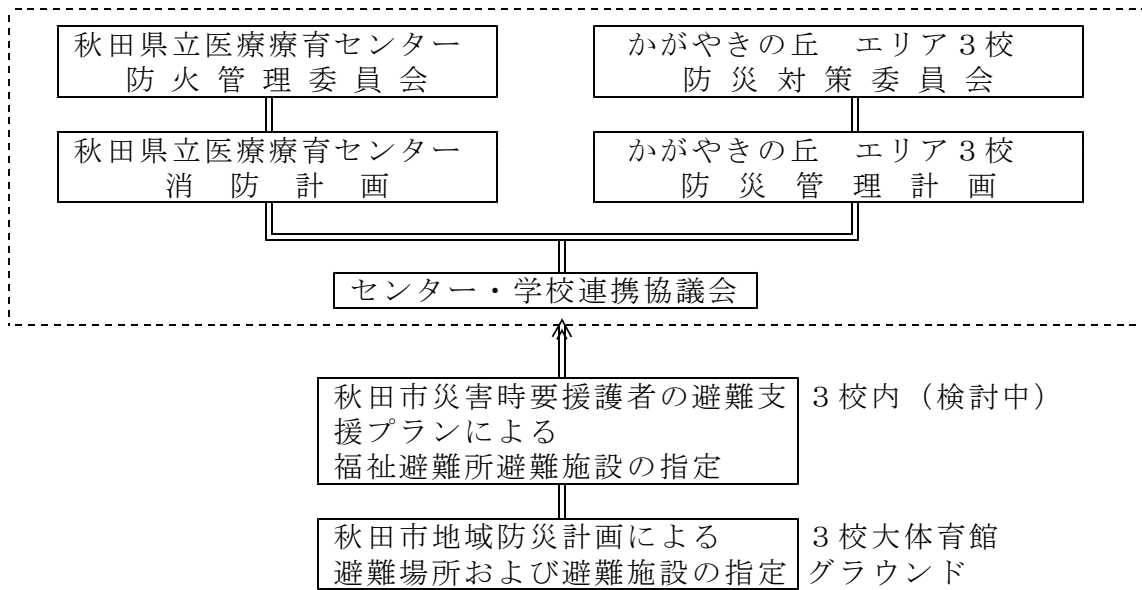
- ・医療情報に基づいた指導により、医療、教育双方からの適切な支援につながった。
- ・学校の活動場面での具体的な助言を受け、児童生徒が学習に向かいやすい環境や支援の方法を得ることができた。
- ・児童生徒一人一人の支援目標を医療・教育共通の視点から設定することができる。
- ・連携ケース検討会等を通し、共通した目標に向けて、役割分担による支援を行うことができる。
- ・食事指導については、定期的な助言により、段階的な指導につなげたい。

(4) 次年度に向けて

- ・限られた指導回数の中で、助言前の課題の確認から、助言内容の担任へのアドバイス、指導後のフォローの流れを効率的に整理する。
- ・PT・OT・STの派遣計画を早めに設定し、効率的な支援の流れを作る。

#### 4 防災対策（平成23年度）

##### (1) センター及び3校の防災対策構造図



##### (2) 成果と課題

- ・センター及び3校の防災計画について、センター・学校連携協議会を通し、双方で確認し合うことができた。
- ・双方の避難訓練の様子を確認し合う作業から、エリア全体の総合防災の在り方を検討することとする。

##### (3) 次年度に向けて

- ・センター・学校連携の防災計画の在り方を検討する。
- ・3校では、秋田市地域防災計画及び福祉避難所施設の指定要請を受け、その対応を検討する。

## Ⅱ 相談支援、総合相談の機能について

【診療部、総合相談・地域療育支援部、発達障害者支援部による相談の実績】

(平成23年4月～12月)

	診療部 (診療機能を活用した対応)	総合相談・地域療育支援部 (福祉サービスを活用した対応)	発達障害者支援部 (発達障害に特化した相談)
実数	551 (1,079)	336 ( 331)	272 ( 194)
延数		1,482 (1,058)	1,158 (1,092)
内訳	外来新患の主な内訳	入所・通所	自立支援相談
	精神・神経疾患・発達障害	療育相談	就労相談
	335 (463)	経済問題相談	教育相談
	整形関係	教育相談	家庭生活相談
	111 (133)	受診援助	健康医療相談
	脳性まひ	その他	その他
	20 ( 16)	109 ( 60)	155 ( 111)
	など		

※ ( ) 内は、前年同期、単位：件

## Ⅲ 地域開放、地域交流について

### ◇ 第1回報告時の課題と今年度の重点事項（参考）

- (1) 体育館の使用は、スポ少の使用が多く、障害者団体等の使用が少ない
- (2) 地元の上北手小学校との交流
- (3) かがやきの丘祭り等を通じた地域とのつながり

## 1 学校開放の状況

	平成22年度	平成23年度
体育館の開放	71件	106件
グラウンド・ソフトボール場の開放	4件	7件
技術・交流センターの開放	9件	9件
計	84件	122件

- ・平成23年度は2月中の予約も含む
- ・平成24年1月まで41団体登録済み、内13団体が障害者関係の登録区分

## 2 「かがやきの丘祭り」概要

(1)日時：平成23年7月22日（金） 1学期終業式  
16：40～19：00

(2)会場：かがやきの丘交流プラザ（学校とセンターの間）

(3)内容：

- ・出店コーナー：9店舗（イオン，PTA，センター親の会，作業所 等）
- ・ステージイベント：11団体（吹奏楽，歌，ダンス，手話バンド 等）
- ・アトラクション：2団体（国際教養大学竿灯会，ベロタクシー）

(4)参加者：

約500人（3校幼児児童生徒・家族・職員，医療療育センター通園児・入所者・家族・職員，各校卒業生，地域の皆さん，ボランティア 他）

(5)成果と課題：

- ・3校，センター，地域と利用者の実情が大きく異なる条件の中で，お祭りを通じた交流と理解啓発のねらいが達成できた。
- ・初めての試みで，学校職員主導のお祭りとなったが，児童生徒・保護者や地域が主体となるお祭りに育てたい。
- ・近隣の町内会もまだ若く，地域のつながりを求める機会となった。今回は企画への参加はなかったが，次年度以降の企画参加を計画している。

(6)次年度に向けて

- ・期日は，今年度同様1学期終業式の夕方に実施する。
- ・各施設の実情，児童生徒の実態，予算等に鑑み，今年度並みの時間と内容を想定したい。
- ・町内会や子供会の参加を呼びかけ，より地域に密着したお祭りに育てたい。

## 3 ボランティア活用体制

(1)センターのボランティア活用状況（平成23年4月～12月）

①秋田大学学生ボランティア（秋田大学Vネット）の受入れ

- ・遊びのボランティア（月2回、日曜日13：00～15：00）
- ・学習のボランティア（毎週火曜日17：00～18：00）

合計受入回数 35回 延194人

②個人ボランティアの受入れ

- ・入所児童への絵本の読み聞かせ、乳幼児通園での保育活動の手伝い
- 受入れ回数 22回 延22人

(2) 3校のボランティア活用状況

学 校	回数	延べ人数	主な活動	団体等
盲学校	4回	30人	音声パソコン支援 図書データ入力他	専門学校学生 一般
聾学校	1回	11人	寄宿舎余暇活動他	看護大学学生
秋田きらり支援学校	4回	21人	学習発表会業務 図書データ入力他	専門学校学生 一般
3校合同	5回	65人	草刈り, 夏祭り, 学校公開業務 他	地域社会福祉協議会 高校生 一般 他
計	14回	127人		

\* 学校ボランティア登録人数：37人

4 盲学校・聾学校・秋田きらり支援学校と上北手小学校との定期的な交流

学 校	学年	延べ回数	主な活動
盲学校	3年	3回	リンゴの葉摘み, 収穫
聾学校	1～6年	1回	校内オリエンテーリング
	4～6年	4回	クラブ活動(球技, ニュースポーツ)
	6年	1回	書写
秋田きらり支援学校	2年	4回	音楽, 国語, 生活(リンゴの収穫)
	4年	1回	東警察署見学
	6年	2回	総合, 音楽
	1～6年	2回	二見まつり予行見学, 児童会活動
計		18回	

Ⅳ 他の医療機関及び教育機関との連携について

1 医療療育センター

(1) 地域医療拠点病院からの研修の受入

(平成23年4月～12月)

平鹿総合病院	理学療法士1名	延べ 8回
北秋田市民病院	理学療法士3名	延べ24回

(2) 特別支援学校等からのリハビリテーション参観の受入

- ・ 31カ所 延199回 (平成23年4月～12月)
- ・ 拠点病院とセンター間において、医療方針や訓練の方法に共通認識を持つため、連携調整会議の開催等について検討を進めている。

2 盲学校・聾学校・秋田きらり支援学校

(1) 盲学校

- ・ サテライト教室の増設：従来の大館、大仙、湯沢に加え、横手南小に新設
- ・ 小・中学校の弱視学級への支援と就学前の相談や「見え方」に関する相談
- ・ 「わくわくスクーリング」の実施：サテライト教室利用児童の本校へのスクーリング
- ・ 成人の方の相談、定期受講者の増加 (今年度12名)

(2) 聾学校

- ・ 県内の聴覚障害者が在籍する幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校への情報提供と交流学习
- ・ 大学の手話サークルとの定期的な交流
- ・ 模試や補習等で秋田南高校との交流

(3) 秋田きらり支援学校

- ・ 秋田大学教育実践研究支援センター「まなびプロジェクト」の活用：特任教授、客員教授による授業指導

- ・東北地区肢体不自由教育研究会の開催：各専門分野の講師と連携した授業づくりと研修
- ・中通総合病院、中通リハビリテーション病院、県内小・中学校、高等学校との連携

## V 発達障害に関するネットワークについて

### 1 発達障害支援の拠点としての活動（発達障害者支援センター ふきのとう秋田）

#### (1) 講演会

期 日：平成23年10月29日（土）

会 場：秋田市北部市民サービスセンターKITASKA

参加者：約120人（保護者、保育所、幼稚園、学校、福祉施設、労働機関 等）

内 容：「発達障害支援の基礎と応用」

#### (2) 発達障害支援者研修会

保育士を中心として、幼・小・中・高の教諭や市町村職員、就労支援機関職員を対象とした研修会を実施。

・平成23年度 県北、県南、中央地区で各1回開催。参加者86人。

#### (3) 県北・県南地区 発達障害基礎研修会

福祉施設、労働機関、行政、医療機関等の職員を対象。

・平成23年度 県北、県南地区で各1回開催。参加者113人。

#### (4) 発達障害巡回相談・研修会

・平成23年度

県北地区 4回開催。

県南地区 3回開催。今後、3月に1回開催予定。

#### (5) 成人期支援研修会

期 日：平成23年8月2日（火）

会 場：秋田市北部市民サービスセンターKITASKA

参加者：約115人（労働機関、福祉施設、学校、行政等地域の関係機関職員等）

内 容：「発達障がいの方々への就労支援」「余暇活動の意味」

#### (6) 関係機関等による会議や研修会講師としての参加

関係機関等主催による会議や研修会に講師として積極的に参加し、センターの機能、相談事例等を紹介し、広く理解促進と連携への協力を行った。

○栗田養護学校、横手市主任児童委員連絡会、秋田労働局、南児童相談所、県教育庁、県雄勝地域振興局福祉環境部、秋田障害者職業センター、NPOあきた花咲く教師力ネット、障がい者支援ネット秋田りっぷる、秋田大学大学院 等。

#### (7) 秋田市障がい児者総合相談会

偶数月第3日曜日の午後に開催されており、他事業所と共に相談対応している。

#### (8) 秋田県発達障害者支援センター連絡協議会の設置

発達障害者支援を効果的に実施するためには、地域において発達障害者等を支えるネットワークの構築が不可欠であることから、今年度新たに設置し、事務局は、秋田県発達障害者支援センターに置く。

平成23年8月25日（木）、平成24年1月20日（金）の2回開催。

平成24年度に連絡協議会の下部組織として、県北・県南・中央地区に支部会を設置予定であり、設置に向けた具体的な協議を行った。

支部会の方向性として、地域の事情に通じたメンバーと具体的な支援につながる話し合いをすることとしている。

## 2 秋田県発達障害支援対策協議会の活動状況

### (1) 第1回：平成23年8月5日（金）

- ①各関係機関における発達障害者支援対策について
- ②発達障害者支援センター連絡協議会について
- ③発達障害者支援センター事業方針について
- ④発達障害児（者）ガイドブックの改訂について

### (2) 第2回：平成24年3月2日（金）開催予定

- ①発達障害者の就労支援について
- ②発達障害者支援センター連絡協議会について

### (3) 今後について

秋田県発達障害支援対策協議会・秋田県発達障害者支援センター連絡協議会や、新たに設置予定である連絡協議会の支部会を通じて地域とのネットワークづくりを更に推進していくとともに、今後も各種研修会等を継続し、関係機関との情報共有や連携を図って行く。

## Ⅵ かがやき手帳について

### 1 今年度の取組

全県規模の活用を目指し、保護者や関係各方面より意見聴取、検討

- ・モニタリングの実施（回答100名：特別支援学校77名、仙北市23名）  
(別添資料2参照)

- ・手帳の配布時期・場所等について検討中

### 2 今後の予定

- ・改訂版の完成、関係各方面に推薦依頼
- ・次年度は、配布・活用推進